

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/11 ～2019/02/28)

1. 勉学の状況

2月12日にキャンベラについておおよそ2週間程度が経ちましたが、ようやく2週間程度続いていたオリエンテーションウィークが終わり2月の最終週から授業が始まりました。私の通っているANUは千葉大と同様に最初の一週間で授業を変更することが出来るので、そのフレキシブルさに感動しつつ6つほど講義を受けてみました。

ANUの1コースは一週間の中で、レクチャーと呼ばれる講義が2時間とチュートリアルと呼ばれる少人数のゼミ形式の授業が1時間の計3時間からなります。

Lecture: 私自身の専攻が中東政治・難民なのでそういった分野に近い講義においては教授が説明していることを一定数理解できるのですが、例えば*(In)Stability on the Korean Peninsula*は朝鮮半島情勢を包括的に学ぶコースで朝鮮半島に関する予備知識が薄い自分としては教授が何を言っているのかわからないことが多いので苦勞することも多いです。なので、ANUではすべての授業がレコーディングされているので授業外の時間にレクチャーを見返したり参考文献を頭に入れることで分からない授業の補完を行っています。

Readings: 個々のコースはそれぞれ大体40p程度の参考文献を各週に要求してくるので、それらを読むことに慣れていなかった自分としてはかなり時間がかかってしまい苦勞しております、それに加えて*International Security issues in the Asia Pacific*のように国際関係学の概念的な説明を中心としたコースでは概念理解がものすごく大切ですが、参考文献を読んでも具体的ではないためにあまり理解できず苦勞しています。

Tutorial: チュートリアルでは他の生徒の知識レベルの高さに驚かされます。例えば*Burma/Myanmar - a Country in Crisis*で教授に「ではミャンマーにおけるナショナリズムについて、そもそもナショナリズムの定義・ミャンマーにおけるナショナリズムの現状とその必然性の有無を話し合ってください」と初回の授業でいきなり言われたにもかかわらず他の生徒がすごく論理的かつ十分な知識を持って話していたのでそのレベルの高さに驚いたというかむしろ動揺しました。そういった中で日本のナショナリズムなど日本に関して聞かれることも多いのですが、そもそも自分自身が日本のことを知らないのでも議論に混ざれないのが悔しいです。ただ一方で抽象的ですがこういったレベルの高い議論をしたかった自分としては英語で上手く伝えられないことにもどかしさを感じながらも望んでいた環境に身を置けることはすごくうれしく思います。

包括: こう書いてみると一見順調そうに(?)見えなくもないですが講義や参考文献を見ていてもキーポイントが分からないことがかなり多く、今の勉強は自分が何をわかっていないのかわか

らない状態、例えるならば見えない洞窟をやみくもに歩いているような感覚なので漠然といろいろな不安だし苦勞することが多いです。そんな中でも幸運なことに周りに優しい友達が多いのでそういう人たちにいろいろ教えてもらいながら勉強を頑張っています。

2. 生活の状況

全般：キャンベラは人工都市で Canberra Centre にすべてが集まっているのですごく利便性が高いです。ただ逆に歴史も浅いため一般的な観光名所などがあまりなくカップルがどうやってデートしているのだろうか不思議に感じます。(笑)その代わり、自然を生かしたアクティビティが多いので少し自分自身のライフスタイルをそういった方向にシフトチェンジしてもいい気がします。

友人面：実際私自身ここを留学前から気にしていて、友達がうまく作れるだろうか(新生の気分ですが)心配していましたが、ANU はオリエンテーションが2週間に渡ってあることから分かるように新生・交換留学生を対象にしたイベントがものすごく多いのでそこで意欲的に話していると自然と友達の輪が広がっていきました。また、多文化的な環境もあってか本当にみんなフレンドリーで、例えばキッチンで料理しているうちに仲良くなった人たちも結構います。ただ、オーストラリアという環境の特性上アジア系の人たちが多いのでそういった人たちとは仲良くなりやすいのですが、勝手に自分の心のどこかでアジア系・それ以外と線引きをしてしまっていてアジア系以外とあまりコミュニケーションが取れていないのが課題だなと思います。

英語面：これはまだ来てから2週間程度しか経っていないので terrible な状態(笑)ですが、本当に話す・聞く を繰り返すしかないかなと思っています。自分は帰国子女でもなければ日本でそんなに英語を使う機会を経験してこなかったもので、まったく自信を持っては話せませんがもちろん英語圏にいれば自動的に話せるようになるわけでもないので意識的に話しかけたり聞いたりしています。いざ授業が始まると勉強時間が多くなって必然的に話す機会が減ってきているのでどうにか増やす方法がないか模索しています。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01～2019/04/13)

1. 勉学の状況

4月8日から、Mid-Breakが始まり物事が一旦落ち着きだしたこの頃です。私が専攻しているIR(国際関係学)の難しい点は、英語をフルに活用する学問だということです。どうということかということ、FinanceだったりEconomicsはもちろん講義は英語で行われるものあくまで数字を扱うことが多いのでテストなども計算がしっかりできていれば問題ないことが多いです。一方でIRは単に知識をイン・アウトプットするものではなくて論文などで得た知識を、どのようにエッセイとしてアウトプットするかが一番大切なので英語でエッセイが書けることは当たり前としてどのような表現を使ったりどうより適切な言葉を選ぶかに気を付ける必要があります。これは正直私のような英語学習者にとっては大変です。実際Mid-Breakが始まる前に5つのエッセイ(700words、700words、1200words、1200words、2000words)を提出しなくてはならず、すべて期限内に提出することは出来ましたが後半は結構追い詰められてパニックになってました。そういう時友達が話を聞いて励ましてくれたので本当にありがたい限りです。

オーストラリアに来ていわゆる西欧的な教育を体感してみても思うことは、当然ながら良い側面・悪い側面があるということです。良い面は、自分自身の知的欲求に大学が全面的に答えてくれる点です。エッセイを添削してくれる部署もありますし、他の生徒も非常に勉強熱心なので存分に勉強することが出来ます、これに関してはあまり言及しなくてもお分かりいただけるかと思います。一方で悪い面は、勉強以外の面(特に課外活動)を行うことが難しい点です。私は日本にいたときに大学と並行して東京でインターンを一年生の頃からしていたのでそういう生活を普通に感じていましたが、ANUでの生活は本当に勉強が忙しすぎて他のことに手を出せない印象があります。これはもしかしたらANUだけの話かもしれませんが、トップ大学であるが故の忙しさに加えてキャンベラの田舎さがいまってキャンパス内に束縛されている印象が強いです。

私個人としては、日本の大学は問題が多いと思います。幸いながら私は情熱的な先生方に恵まれやりたい勉強ができましたが、大学全体の何となくやる気のない雰囲気が好きではありません。大学入るまでは大変だが卒業するのは楽という風潮も如何なものかと思います。ただそれによって大学外のことに目を向けられていたことも事実です。今ここでどちらの方が良いと申し上げるつもりはありませんが、留学に来るまでこういった海外大学の教育を妄信していた自分にとっては面白いサプライズでした。

2. 生活の状況

前回の報告書でも述べたように、セメスターが始まると明らかに英語を使う機会は減っていきます。なので、私は意識的に使う時間を増やしました。具体的には図書館での勉強が終わって寮に帰宅した後に友達を呼んでビリヤードをしながら今日あったことだったり恋愛の話だったり悩みだったりを話すようにしました。意識的にそういうことに取り組むと自然と時間を確保できるようになるので、とりあえず一安心です。

キャンベラは、日本で例えるなら都会へのアクセスをなくしちょっと規模を小さくした千葉市です。基本的な生活は出来るしおしゃれなカフェなどもあります。面白みはない都市です。私自身は来て2か月で既に飽きているのでこれからが心配ですが、他の学生はこういうMid-Breakにシドニーやメルボルン・ニュージーランドに出かけたりして生活を楽しんでいます。自分も行こうと計画したのですが、Break後に三つエッセイ(1200words、2000words、2000words)があることに気づいたので今回はキャンベラにステイする予定です。(悲しい)

オーストラリアは人がとても親切だし教育・インフラもしっかりしているのですごく住みやすくみんなにお勧めできる国ですが、私の性格的にカオスな国に惹かれることが多いのでこういうしっかりしすぎる国での生活に違和感を感じる場合があります。ただ、今留学を考えている人たちにとってはANU/オーストラリアはどちらも本当にお勧めできるのでぜひ候補に入れて考えていただけると嬉しいです！！GPAの基準もないしね！

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/14～2019/05/14)

1. 勉学の状況

前回の報告書でも申し上げた通りアサイメントが mid-break 後 3 つあったため忙しい生活を送っていましたが、最後のエッセイも先週ようやく提出できたので久しぶりに普通の生活が戻ってきてうれしいです。アサイメントに追い詰められていた時は割と精神的に辛いことが多かったのですが周りもみんな勉強しているのでそれはとても心強かったです。

STST2001 のエッセイのトピックがアジア太平洋地域における米中の軍事摩擦を考察しその後の展開を考えよというもので、面白いなと思ったのは中国の軍備増強が offensive なのか defensive reasons によるものなのか中華系学者とアメリカ系学者で主張が真っ向から反発していた点です。どちらの主張も論理的であるので読んでいてすごく面白いなと思いました。

勉強は大変ですが前の報告書でも申し上げた通り好きな勉強をしているので楽しく生活できています。

2. 生活の状況

エッセイがあったためにあまり生活を楽しむ時間はありませんでしたが、先週時間が出来たのでキャンベラのラグビーチームの試合観戦に行きました。丁度その日は日本のサンウルブスとの試合だったので日本のサポーターも多くいました。試合は 33-0 でキャンベラのチームが勝利しましたが、久しぶりに遊びに行けたのでリフレッシュが出来ました。

キャンベラはすっかり秋になってもとから朝晩の寒暖差が激しいのがさらに激しくなり朝は 3℃ くらい昼で 14℃ くらいになってきました。それに加えて乾燥した気候なので乾燥に弱い自分は気を付けていないと風邪をひきます。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/15～2019/06/25)

1. 勉学の状況

ちょうど一週間前くらいに前期が終了して、やっと自由な時間を手に入れた今日この頃です。1 セメスターは 12 週からなり、WEEK12 が終わったのは 5 月末でそのあとはテストウィークが 3 週間程度続くといった感じです。なので、日本の大学と違って授業が終わったあとテストまでの間自由に勉強ができる時間が確保できます。人によってテストの様式は様々ですが、自分は Take-home exam という決められた時間内に一定数の字数でエッセイを書きオンラインで提出するスタイルのものが 2 つ、エッセイが一つ、2 時間のテストが一つの計 4 つです。自分は International Relations 専攻なのでエッセイが多いですが、これが finance, economics, linguistics とかになってくると 4 つすべて筆記のテストの場合が多いです。

私のテストを具体的に申し上げますと、中東情勢のコースは 2000w のエッセイを 4 日間のうちに提出/参考文献必須（これはあまりきつくない）・アジア太平洋地域の安全保障のコースは 27 時間以内に 3000w のエッセイ/参考文献は任意（結構大変）・ミャンマーのコースは minimum 2500w のエッセイの提出（実際には 3500w 程度書きました）・朝鮮半島情勢のコースは 2 時間の筆記テストで 4 つのトピックに関する回答をエッセイ形式で書くというものです。試験期間中は、たとえオーストラリア人であろうとも精神的にきつくなる人が多く私自身もつらかったです。特にミャンマーのエッセイに関しては、先ほども申し上げたように 3500w 程度書いたのですがこれがどの程度の量なのかというと A4・フォントサイズ 11 で大体 10 p 前後です。他の勉強もしないといけない中で参考文献を読んだりという作業をこなすのは中々大変でした。結果はまだわかりませんが、いい結果を願うばかりです。

前期の勉強の総括をすると、オーストラリアに来てやりたかった IR をがっつりできたことでいろいろな発見ができたなと思います。一つ大きなことは、やりたいものであればそれがたとえきつくともこなせるという自信がついたことです。最初海外の大学で勉強なんてできるのか不安なことが多かったですが、意外と飛び込んでみるとそんなに難しいものではないことが分かり、これは私の海外の大学院で勉強したいという意志を強くしてくれました。ANU は自分のやりたい勉強がはっきりしている（はっきりしていなくとも勉強の意志が強い）人にとってはとても良い環境だと思います。ただ逆にそうでない人にとっては、他のもっと大都市のあるような大学で勉強するほうが交換留学という文脈で考えると勉強以外にもいろいろなことができるのでよいと思います。

もう一つの発見は、政治関連の分野をこれからも学び続けることが自分にとって有効なことなのか分からなくなったことです。これは特に、朝鮮半島情勢について勉強しているときに感じたことなのですが半島情勢を考える上では日本の戦争の歴史について触れることは必要不可欠で

す。私もいろいろな視点が欲しくてそういった授業を取ったのですが、毎回のように自分の国のそういった負の歴史を学ばなくてはいけない状況はわかってはいてもつらいものがありました。自分がしたわけではない、でも自分の国が過去に行った罪を自分はどういう風に考えればよいのか考えることに正解はありません。ただ政治を勉強する以上こういった問題には目を留め続けなければいけない。自分自身は中立的な意見を持っていると思っていても20年間も日本に住み教育を日本で受けているとどこかしらで日本的なバイアスを自分が持っていることに気づかされます。日韓の歴史認識のギャップは日本人が考えている以上にシビアです。いくらそういった問題について知識を持っている人同士で話しても、喧嘩になることもあります。実際、自分も韓国人の友人とそういう話をした苦い経験があります。日本で中東政治を勉強していた時はイギリスがほとんど悪いなどと声高らかに言えましたが、いざ自分の国の話となると何も言えなくなってしまうことに悩み考えさせられました。

政治の勉強をしていると形は違えどそういった悩みをこの先も抱えるのかと思うと勉強をし続けたいのかという問いに即決できなくなります。友人が言ってくれた言葉がすごく印象に残っています。政治は自分自身の考え方を変え成長させてくれるものでその勉強は決して無駄ではない、ただ実践的な学問ではないために現実的な将来においてどの程度自身の武器として有効活用できるのかについては疑問符が付く。手短かに言ってしまうと、答えのないものをずっとやり続けることに対する不安・苛立ちを前期の授業で抱えることが多く大学院でこういったものをやり続けるべきなのかよくわからなくなりました。

とはいっても、ここまで勉強してきたことは決して無駄ではなくて自分自身を大いに成長させてくれたことは強く認識しているので大学院ではもう少し実践的な学問を勉強して2つの学問を自分の中で融合させれたらいいのかなと思います。

2. 生活の状況

こんなに提出を先延ばしにして、たいして書くことがないのが大変申し訳ないです。今回は項目を3つ設けて生活状況をお伝えしようと思います。

- 大学生活

ここ最近では前述したとおり、テストで忙しかったのであまり遊べなかったです。というか前期を終えてあまり遊んだ感覚がないのはなぜでしょう。(笑)振り返って考えてみると、勉強にフォーカスしすぎていたような気がします。他の交換留学生を見ていると、もう少しフレキシブルに遊んでいてももう少し見習いたいなと思います。ただキャンベラで遊ぶといっても何をすればいいのかちょっとよくわかりませんね。。。

- 英語力

前期を総括すると、伸びたと思います。英語力は結果的に英語自体というか話す・聞く自信がどのくらいあるかに比例すると気づきその考えに基づいて考察するという人

な人と話す経験を増やしていったことで当初の英語力よりは伸びたのかなと思います。
と言ってもまだまだなことが多いので、引き続き頑張りたいと思います。

- ブレイク中の予定

ブレイクが1か月程度しかないので、あまり大胆に行動できませんがブリスベン・メルボルンに1週間程度行く予定です。その様子は次回の報告書にてお伝えさせていただければと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/06/26～2019/08/03)

1. 勉学の状況

キャンベラは今真冬で夜になると氷点下になるなど、とても寒いです。友達などの SNS を見てセミの音などを聞くと幾分か日本が恋しく感じます。

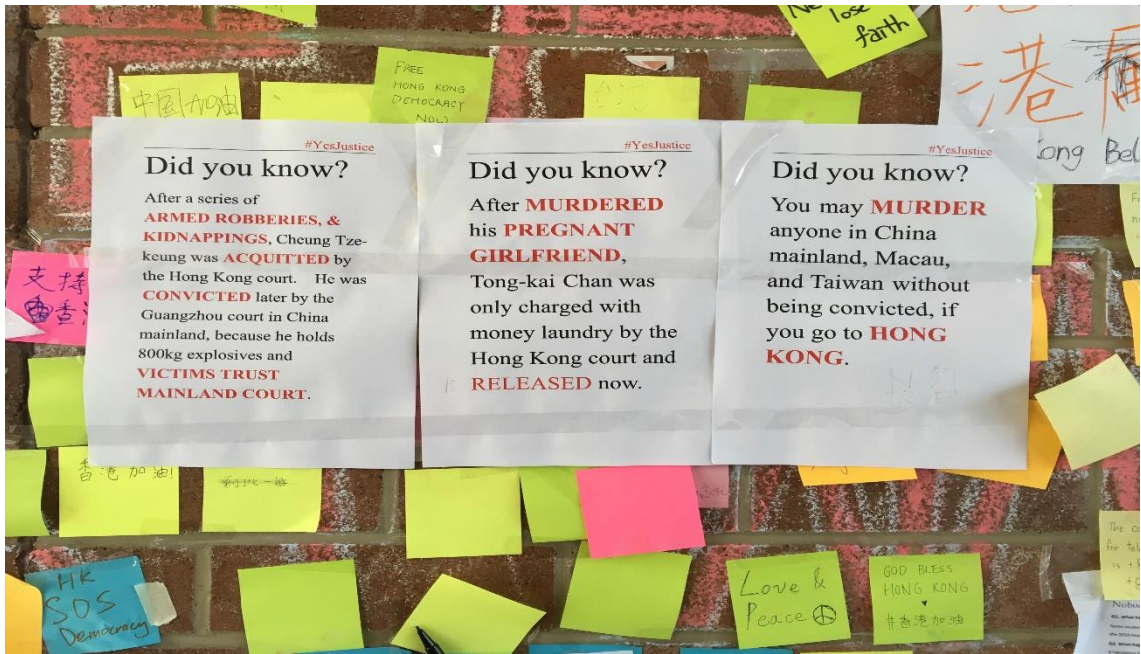
さて勉学の状況に関してですが、結果から申し上げますとすべて単位を取得することが出来ました。前期かなり缶詰になりながら勉強していたので、その努力が報われてよかったです。ただ最終的な目的は単位互換をすることでこれは自分が帰国してからでないとなんか可能なのかどうか分からないのでまだひやひやしています。

後期の受講コースについてですが、前期と同じく 4 コース (ASIA2065 Asian Politics From Concept to Cause, MEAS2105 The Political Economy of the Middle East, INTR2012 Chinese Foreign and Security Policy, INTR1006 Introduction to International Relations) です。こちらは単位互換を意識した選択になっていて ANU のコースと千葉大のコースを比較しながら選定しました。こちらに関しても前期同様努力していきたいと思います。

2. 生活の状況

Sem2 が始まる前に 1 ヶ月の休みがありどこかに行きたかったのですが、風邪をこじらしてしまったので行けず残念です。まあまたの機会に行ければと思います。

直近のニュースに関連して、今東アジアでは香港・中国の間で施行予定であった法律をめぐって香港人の多くが反発をし、デモを行っています。それは香港以外の場所にも存在していてここ ANU にも抗議運動の波は押し寄せてきています。それはなぜかというと多くの香港人がここで勉強しているからです。添付した写真は香港人のグループがポスターを大量に壁に貼り付けたものです。面白いのは、香港人の意見だけでなく中国人そしてオーストラリア人の意見もその壁には書かれているという点です。確かに、写真のように過激な発言をするタイプの人もありますが自由な論調が許されたうえで活発な議論がなされているのはすごく大学のいいところのように思います。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/08/03～2019/09/15)

1. 勉学の状況

二学期も始まり、また忙しい生活が戻ってきました。今回は、POLIS1006- Introduction to International Relations: Contemporary Global Issues / MEAS2105- The Political Economy of the Middle East / INTR2012- Chinese Foreign and Security Policy / ASIA2065- Asian Politics: From Concepts to Causes の4つを受講することに決めました。今回の履修は単位互換に重きを置いたものになっていて、POLIS1006 は国際政治Ⅰ、MEAS2105 は中東政治関連の演習に、ASIA2065 はアジア政治の演習に互換できればいいなと思っています。ただ単位互換は留学を終了して帰国後に単位申請を法政経学部に提出して初めて認定されるか決まるので、留学先の大学にて単位取得できるかわからないことにはすこしやりづらさを感じます。どうしても国際関係学という専攻の特性上、エッセイが多く論文の収集だったり理解に多くの時間を要求されるので行きたいイベントに行けなかったりしてストレスがたまったりします。

一学期目と比較すると、勉強のやり方にも慣れ前に比べると幾分かはストレスフリーにできているかと思います。ただ最近は留学における勉強の意味を見いだせず悩むことが多いです。そもそも1学期に千葉大と同じ程度もしくはそれ以上勉強したにもかかわらずせいぜい6単位程度にしかならないというのはあまりにもコスパが悪すぎます。確かに自分の知的欲求を満たせるのだからそれだけで留学先での勉強には意味があるのかもしれませんが、自分が精神的に疲労しながらも得た対価は、知的欲求などの自己満足でなくもっと対外的に評価されるべきではないかと思っています。1学期6単位程度しか取得していないというのは単にそれだけを見るならば遊んでいるような風にも見えてしまうのが残念です。

2. 生活の状況

前の報告書でも申し上げた通りに、セメ1と2の間に1ヶ月くらいの休みがありそれを利用してブリスベンとメルボルンに行こうと友達と計画していましたが、自分が風邪をこじらせてしまったために行けなくなってしまったのでかなり残念です。またの機会にチャレンジしたいと思います。

二学期にもなると、こちらの生活にも慣れるので基本的には千葉大学にいる感覚とあまりかわらなくなりました。千葉大にいるときは単に学校に行き授業を受ける生活が単調で物足りなさを感じていたのが都内でインターンをしていたりしていましたが、キャンベラではそういった課外活動を上手く行えていません。そもそも町の規模が小さいので機会も限られてきます。そんな中、アボリジニについて知る機会があり結構調べていくとこれがオーストラリアに来た理由なのか

なと思う発見がありました。

自分が今の専攻にしている中東に興味を持ったのも、情報が少ない・よくわからないというのがベースの理由だったと思います。よく知られておらず怖いというイメージが先行しがちな地域で暮らす人たちはどういう人たちなのだろうという好奇心がありました。オーストラリアにいるアボリジニは物乞いをしたり道端で寝ていたりしているのでオーストラリア人からのイメージは悪くあまり情報も受け身では入ってきません。ですが、一旦調べてみるとすごく豊かで素晴らしい文化を持った人たちであることが分かります。我々のようなスーパーでものを買ったりしている人間には住みにくいただの砂漠にしか見えないオーストラリアの内陸部は、彼らのように水のある場所を知っていてどうしたら食料を採集するか知っている人々からすると肥沃な土地に見える。同じ人間でも、一つの場所に対する見方が二つあるというのは何とも面白いです。そういうことを知っていくうちに私自身が何を仕事にし何を人生において大切にしたいのかが少しわかってきました。

一般の人たちは、いわゆるそういったマイナーな文化などを気にすることはあまりないしそういったものと触れ合わずに生活しています。ただ自分にはそういった現状はそういった自分たちを知ってほしいと思っている人たちが間接的に無視されているように見えます。そんな中で自分は無視する人間にはなりたくないむしろ伝える立場に立ちたいなと強く思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/09/16～2019/11/28)

1. 勉学の状況

勉強に関しては、相変わらず大変です。受講しているコースの1つに ASIA2015-Asian Politics というアジア圏における政治を包括的に勉強するものがあります。これに関しては、毎週異なる国・地域についてある程度密の濃い学習をするので授業前の予習であったりが多くうまくこなせていません。こういうところでやはりオーストラリア人学生との間での差を感じるのでストレスが溜まったりします。ですが、その分一回で学べる知識の範囲が広いので楽しい部分もあります。前期である程度 ANU での勉強にはなれたつもりでしたが、エッセイなどの課題が出るとやはりストレスを感じ疲れることが多いです。前期に比べるとうまく休暇がブレイク中にとれなかったのか勉強へのモチベーションや体力が得られず疲労感を感じるが多いです。

自分は海外大学でマスターを勉強することを念頭に置いたうえで留学をしたので大学ランキングを気にした選び方をしたりしていました。しかし、海外大学で勉強することに盲目的になりすぎていたのもあったのかいろいろとマスターを学ぶことが正しいのか考えさせられることが多くありました。例えば、こちらにマスターを勉強しに来ている学生と話す機会が多くありますが意外と仕事をした経験を持っている人が多く大学を卒業してストレートにマスターに行くよりその方が自身の勉強に意味を見出せるのではないかなと考えたりしました。

勉強に関して総括をするならば、とても刺激的な環境だと言えます。一年生のコースで千葉大学の2年・3年間分をフォローしてしまうので、大変ながら自分の成長を実感できました。ANUは本当に勉強をしたい方にはお勧めな大学だと言えます。

2. 生活の状況

自分自身の留学ももう終わりに近いので、ANU 留学の良い点悪い点を総括してみたいと思います。

- 良い点

・ 勉強のレベルが高い

やはり名前も世界的に有名ですし、勉強のペースも早いので自分の専攻をより深く勉強したい人やレベルの高い大学に関心がある人にはお勧めです。

・ ゆったりした生活

首都と言えど、人が少なく田舎なのでゆったりした時間を過ごすことができます。自然が好きな人や都会が苦手な人にはお勧めです。

- ・ **治安が良い**

町の大きさが小さく人々が基本的には豊かなので、大変安全です。なくした携帯も帰ってきたので、日本と同程度に安全と言ってよいと思います。

- ・ **留学生の多さ**

私の住んでいた寮の Domestic/international students の割合が半々なことからわかるように留学生が多いので、たとえ英語に自信がなくとも皆理解してくれます。

- **悪い点**

- ・ **田舎**

これはマイナスポイントにもなりえます。勉強以外にやることを見つけられないのでいろんなことをやるには不向きです。

- ・ **アクセスの悪さ**

シドニーまで3時間、メルボルンまで8時間バスではかかります。飛行機も使えますが、チケットが高いので現実的ではありません。いろいろなどこに行きたい場合はまずこういった都市に行く必要があるので注意しましょう。

- ・ **一年中基本的に寒い**

確かに夏であれば温かいですが、昼夜の寒暖差が激しく夜は冷え込みます。風もとても強いので、寒いところが苦手な方には不向きです。

最後に、この一年間は自分自身について考えたり楽しいばかりでは決してありませんでした。しかし、日本に帰国して考えてみると自分は一年前に比べて大きく成長していることに気づき行ってよかったと強く実感しました。

留学支援室の方々・酒井先生を始めとして私の留学をサポートしてくださったすべての方への感謝を込めて私の月間報告書を締めさせていただきます。